

## 古巣と同一場所に造巣し繁殖したリュウキュウサンショウクイの観察

八木 茂<sup>1</sup>

Shigeru YAGI : Observation of breeding Ryukyu Ashy Minivet *Pericrocotus divaricatus tegimae*  
using same area as the old breeding nest

### はじめに

カラス類・ツバメ類・樹洞を利用する種類を除く多くのスズメ目の鳥は古巣を使わず巣は1度切りの使用であるとされている(柴田 2006; 小海途・和田 2011)。通常、これらの鳥の巣は2度の使用は無く繁殖に悪影響を与えないという原則に基づいて、巣立ちの終わった巣は標本や分析のため取り去ることが普通に行われており(箕輪 2016)、巣立ちのあとならいつ採取してもよいとされている(小海途・和田 2011)。樹の枝上に造巣する亜種リュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus tegimae* についても例外ではなく、嵩原(2002)は巣立ち後の巣を採取し構造や巢材の分析を行っている。

古巣そのものは再利用がないことを前提にして採取するが、木の枝に取り付けられた巣にたいしては同じ場所での造巣の可能性を残すため枝を残して巣だけ採取することを勧めて(小海途・和田 2011)いて、古巣の場所を野鳥に選ばれた場所として配慮すべきとしている。但し、木の枝の同じ場所に造巣する鳥の具体例としてはカラス類やキジバト以外は知られていない(小海途・和田 2011)。

筆者は2020年4月7日に神奈川県秦野市の山中でリュウキュウサンショウクイの造巣を発見し、その後5月24日に2羽の雛が巣立つまでを観察し、東日本で初めての繁殖を確認した(八木 2020)。この巣立ち後の巣はその後放置され、巣の基部を残して崩壊したが、前回の造巣からほぼ2年後の2022年4月11日に前回と同じ観察地で雄雌のリュウキュウサンショウクイを確認し、新しく作られた巣を発見した。この

新しい巣は前回の古巣と全く同じ位置に作られていた。

今回、リュウキュウサンショウクイの雛が2020年5月に巣立った後の巣の変化を観察した結果と2022年にこの古巣位置に新しく造巣したリュウキュウサンショウクイの繁殖行動を報告し、古巣と新しく作られた巣の関係から造巣場所の条件と古巣の再利用の可能性を議論する。

### 観察場所と観察方法

前回報告(八木 2020)した神奈川県秦野市内の標高410m付近の表丹沢の山中(北緯35度25分、東経139度10分)で2020年5月24日に巣立った後の巣を2021年10月20日まで観察した。その後、2022年4月11日からは新たに造巣したリュウキュウサンショウクイの繁殖活動を巣立ちまで観察した。造巣から抱卵、育雛期間中は出来るだけ繁殖に影響を与えないように、観察する日の間隔をあげ、時間も30分から1時間以内とした。

前回の繁殖の観察結果に基づき、造巣から産卵、抱卵、孵化の期間をさらに精度よく見極めるため、造巣を見つけてから抱卵開始までと、孵化推定日前後や巣立ち推定日に観察日を集中して設けた。但し雨天や強風日は観察日としなかった。

営巣場所はスギの人工林の中で、巣は目測で樹高約15m(観察位置からの高さ約20m)のスギの木のてっぺん付近の枝の中にあり枝や葉が交錯して巣が比較的よく望める場所は地上では30cm四方のピンポイント1か所しかないのは前回と変わらなかった。仰

1: はだの野鳥の会 E-mail: yagi1642@kuc.biglobe.ne.jp  
キーワード: リュウキュウサンショウクイ, 繁殖, 古巣, 秦野市  
Key words: Ryukyu Ashy Minevet, breeding, old nest, Hadano City

角は 80° くらいではほぼ真下からの観察であった。観察期間中、風の影響により枝の位置が変わったり、杉の葉の成長などによって、巣が元の位置からは見えなくなったりしたため観察位置を少し変えることもあった。

観察と記録にはニコン社製デジタルカメラ P1000 の 35mm 換算 2000-3000mm の望遠倍率を用いて主に動画撮影を行い、コマ送りで再生し細かい動作や状況を確認した。必要に応じて静止画として切り出した。動画の撮影フレームレートは 30 フレーム / 秒であった。

動画撮影は三脚にカメラを設置し、雄や雌が営巣木に近づいた時から巣を離れる間のみ行った。巣に入る瞬間の撮影が間に合わない場合もあった。巣の中に入らない場合も比較のため撮影を行った。撮影時間は通常 30 秒間から 2 分間であった。

## 観察結果

### 1 古巣の観察

2020 年 4 月 8 日にリュウキュウサンショウクイの造巣を発見し、5 月 24 日に 2 羽の雛が巣立った（八

木 2020)。その後、5 月 27 日に巣の近くに雄が一度だけ寄って来たが、雛や雌は戻って来ることはなく放置された状態となった。巣の外観は営巣中と変わらずウメノキゴケが貼り付いていた（写真 1）。

1 か月後の 6 月 27 日には外側にウメノキゴケが貼られているお椀型の巣は、見かけ上大きな変化はなかった。

しかし、2 か月後の 7 月 22 日には外側のウメノキゴケはほぼはげ落ち茶色の構造材がむき出しになっていた。ただ全体の形はお椀型をほぼそのままとどめていた。（写真 2）

さらに 4 か月後、巣立ちから半年経った 11 月 23 日には巣はお椀型の茶色の外巣の形状は分かるものの高さは 1/2 ほどになっており形成する部材が少なくなり隙間ができ、内巣は無くなっているように見えた（写真 3）。茶色の素材は葉の形状を示すものと細い帯状の樹皮の形状を示すものが確認できた。

2021 年 2 月 3 日、3 月 2 日、3 月 10 日、3 月 16 日と観察したが、巣は大きな変化は無いように見えた。付近でリュウキュウサンショウクイの声や姿を見聞きすることは無かった。



写真 1 2020 年 5 月 24 日 巣立ち後の巣  
Photo1 nest after fledging (May 24,2020)



写真 2 2020 年 7 月 22 日 巣立ち後 2 ヶ月後  
Photo 2 2 months after fledging (July 22,2020)



写真 3 2020 年 11 月 23 日 巣立ち後 6 ヶ月後  
Photo 3 6 months after fledging (November 23,2020)



写真 4 2021 年 3 月 31 日 巣立ち後 10 ヶ月後  
Photo 4 10 months after fledging (March 31,2021)

巣立ちから10か月後の2021年3月31日にも巣はお椀型の下半分が残っている状態だった。巣を見通せる場所が変わり撮影はやや異なった場所から行い、やや左側からの巣の写真となっているが11月23日と大きな変化は認められなかった(写真4)。

その後、2021年5月20日と10月20日にも現地を訪れたが、スギの枝や葉に隠されて巣を見ることはできなかった。またリュウキュウサンショウクイの声や姿を見聞きすることは無かった。

## 2 造巣から巣立ちまでの観察

### (1) 造巣

2022年4月11日

前回2020年と同じ場所で2羽のリュウキュウサンショウクイがスギの枝の繁みの中に入っていくのを見た。このスギは2020年に繁殖を観察した木と同じものであり、その中にウメノキゴケが貼られた巣を見つけた。前回と同じくほぼ完成した外形をしていた(写真5)。

この巣の写真を2020年の巣の写真(写真1)と比較したところ、この巣は水平の枝にある白斑と縦に伸



写真5 2022年4月12日 造巣中の巣  
Photo 5 building nest (April 12, 2022)



写真7 2022年4月12日 巣材を運ぶ雌  
Photo 7 female bringing nesting material (April 12, 2022)

びた小枝の特徴から2020年と全く同じ位置にあり、古巣の位置に同じ形の新しい巣を作ったものと判断した。形状は前回とそっくりであった。

4月12日

繁殖のどのステージなのかを調べるため動画を撮りながら行動を観察した。常に2羽で行動し鳴きながら飛んできて、雄は巣の外にいて雌だけが巣の中に入り巣の中と外側を嘴で突いている様子が見られた。雌は体を丸くして震わせるようにして内側を成形し産座をつくらせているような行動を繰り返していた。

少しすると雄とともに飛び去った。この動作を5-10分間隔で繰り返していた。

雄は雌よりも全体が灰色で胸付近が濃い灰色から黒色であり区別できたので以後も胸の色で判断した。撮影した動画をコマごとに詳細に調べた結果、4月11日には雌が細い小枝(写真6)を運び、4月12日には細い茎状のものを咥えて巣に入り(写真7)産座を整えていたり、ウメノキゴケの貼られた外側を嘴や喉を使ってなでつけているような様子が確認できた。また雌が産座を成型している間に雄が何かを雌に渡しすぐ飛び去る光景も確認できた。巣材以外に渡すこと



写真6 2022年4月11日 巣材を運ぶ雌  
Photo 6 female bringing nesting material (April 11, 2022)



写真8 2022年4月12日 巣材を雌にわたす雄  
Photo 8 male bringing nesting material to female (April 12, 2022)

はないので雄は見張りだけでなく巣作りを共同でおこなっていると思われる（写真8）。

4月13日

雌が苔を啜って（写真9）巣に入り産座を整えているような映像が確認できたので造巣の最終段階と判断した。

2022年の観察日と2020年の観察日を合わせて表1に示した。

## (2) 産卵から抱卵

4月14日から3日間は雨が続き気温は市内で13℃程度の日が続き、天候の回復した4日後に観察に出かけた。

4月17日

雌が巣の中に座っている姿が確認できたので抱卵が始まったと判断した。

抱卵中は動きが少なく、尾は下尾筒が見える位置まで巣の外に出ていて、向きが時々変わるが、観察期間中はほとんどが東側（観察位置からは左側）で、向きの変化は少なかった。

抱卵中には雌は雄の声が巣に近づいてきたのを聴いて顔を出したり、巣の外に出て一緒に飛び去り、雄雌2羽で巣に戻り雌だけ巣に入ったりしていた。戻るときには声はしなかった。

4月24日、26日

動きは少なく尾と下尾筒が見えるだけであった。外には1回出たのを確認した。巣を離れている時間は4月24日は3分間で、4月26日は約5分間だった。

4月30日

観察の間（29分）に一度だけ巣から出たが、15秒ほどで戻ってきた。戻って巣に入るときの動画撮影が初めて行えた。脇の羽衣を広げて座るのが見られた。全体に動きは少なかったが、顔を出したり、卵の位置を変えているような動作が見られた（写真10）。

孵化日を推定するため5月2日から連続して3日間観察した。観察時間は1日30分前後だった。

5月2日

観察の間（35分間）に二度巣に戻るのを確認し、巣にいない時間は10分と2分だった。雄が餌を雌に渡す行動も見られた（写真11）。



写真9 2022年4月13日 巣材を運ぶ雌  
Photo 9 female bringing nesting material (April 13, 2022)



写真10 2022年4月30日 抱卵中の雌  
Photo 10 female incubating (April 30, 2022)



写真11 2022年5月2日 抱卵中の雌に餌をわたす雄  
Photo 11 male bring food to incubating female (May 2, 2022)



写真12 2022年5月6日 給餌の雌  
Photo 12 female feeding (May 6, 2022)

表1 2020年と2022年のリュウキュウサンショウウイの造巣から巣立ちまでの観察記録（気温は現地の観察時）  
Table1 Observation records of Ryukyu Ashy Minivet from nest building to fledging

2022年						2020年					
営巣地 神奈川県秦野市 標高410m						営巣地 神奈川県秦野市 標高410m					
営巣場所 スギの木の最上部 観察期間 4月11日から5月20日						営巣場所 スギの木の最上部 観察期間 4月7日から5月30日					
月日	曜日	時間	天候	気温	観察結果など	特徴など	月日	曜日	時間	天候	観察結果など
4月7日	木						4月7日	火	11:00ごろ	晴	リュウキュウサンショウウイみと♀
4月8日	金						4月8日	水	8:20-8:40	晴	巣を確認。ほぼ完成形
4月9日	土						4月9日	木	7:40-9:00	晴	巣作2羽で行動している
4月10日	日						4月10日	金			
4月11日	月	9:50-10:35	晴	24℃	み♀と巣を確認、ほぼ完成形	2020年と同じ場所	4月11日	土			
4月12日	火	6:50-8:10	晴	20℃	頻繁に出入り、8回(80分間)	2羽で行動。巣材運び	4月12日	日			
4月13日	水	7:50-8:14	晴	25℃	頻繁に出入り、4回(20分間)	2羽で行動。巣材運び	4月13日	月		大雨	(強風、丹沢雪)
4月14日	木		曇/雨				4月14日	火	11:35-12:30	晴	巣を再確認
4月15日	金		雨				4月15日	水			
4月16日	土		雨/曇				4月16日	木	7:55-8:20	晴	動画で巣の外側のなでつけ行動を撮影
4月17日	日	12:11-12:22	雨/曇	15℃	抱卵。出入り無し	嘴と顔を出す。尾は見えず	4月17日	金			
4月18日	月	11:20-11:32	曇り/雨	13℃	抱卵。出入り無し	尾と下尾筒がはみ出る	4月18日	土		大雨	
4月19日	火		曇り雨				4月19日	日			
4月20日	水						4月20日	月		雨	
4月21日	木						4月21日	火		晴	
4月22日	金		雨のち晴				4月22日	水	7:45-8:00	晴	♀抱卵。♂が近づくと♀が顔を出した
4月23日	土						4月23日	木			
4月24日	日	8:00-8:18	曇り/雨	19℃	抱卵。1回外に出て2羽で戻る	外出時間は3分間	4月24日	金			
4月25日	月						4月25日	土			
4月26日	火	7:44-8:10	曇り	19℃	抱卵。1回外に出て2羽で戻る	外出時間は5分間	4月26日	日			
4月27日	水						4月27日	月	9:45-10:10	曇り	抱卵。尾が見える。
4月28日	木						4月28日	火			
4月29日	金		曇り雨				4月29日	水			
4月30日	土	10:57-11:26	曇り	16℃	抱卵。1回外に出て2羽で戻る	脇羽を広げ座る	4月30日	木			
5月1日	日		雨				5月1日	金			
5月2日	月	10:30-11:05	曇り	13℃	巣の中。♂が餌を渡す	外に出て1.5分で戻る	5月2日	土	7:30-7:45	晴れ	抱卵。尾が見える。
5月3日	火	7:35-8:10	晴	16℃	巣の中。♂の声の回数多い	脇羽を広げて座る	5月3日	日			
5月4日	水	7:40-8:05	晴	16℃	外から2羽で戻る。動き無し	脇羽を広げて座る	5月4日	月	10:40-11:25	小雨	♀抱卵。♂が呼びに来て出。5分で戻る
5月5日	木						5月5日	火			
5月6日	金	14:14-14:45	曇り	23℃	育雛。♀が給餌後に座る。	巣の外に出る頻度が増加	5月6日	水			
5月7日	土		雨曇り				5月7日	木	10:00-10:40	曇/晴	抱卵(時々尾の位置が変わる)
5月8日	日	6:54-8:00	曇り	23℃	育雛。♀不在中♂が給餌		5月8日	金	7:30-8:17	曇	♀抱卵中♂が餌を渡す
5月9日	月						5月9日	土			
5月10日	火						5月10日	日			
5月11日	水						5月11日	月			
5月12日	木	10:55-11:32	曇り/雨	20℃	♀は巣の近くで中には入らず	♂が糞取り。	5月12日	火	7:30-8:00	晴	抱卵
5月13日	金		雨				5月13日	水			
5月14日	土		大雨				5月14日	木	9:50-10:30	晴	動画で雛1羽確認(白い産毛、黄色い嘴)
5月15日	日	13:25-14:41	曇り	17℃	♂が給餌後、♀が巣に入る	雛1羽の尾が見えた	5月15日	金			
5月16日	月		曇り				5月16日	土		雨	
5月17日	火		小雨				5月17日	日			
5月18日	水	9:55-10:55	晴	20℃	巣の中に何も見えない。	(推定)巣立ち	5月18日	月	7:15-7:30	曇	親の出入り。雛見えず。
5月19日	木	7:22-8:12	晴	20℃	巣立ち雛2羽確認	♂が鳴きながら飛ぶ。	5月19日	火	13:50-14:30	雨/曇	雛の羽ばたき。3回給餌に来た。
5月20日	金	9:33-10:30	曇り	23℃	♀が巣近くの木で羽繕い	みと一緒に飛び去った	5月20日	水	10:45-11:55	小雨	ヒナ2羽確認。み♀で餌やり・糞出し。
5月21日	土						5月21日	木		雨	
5月22日	日						5月22日	金	10:15-12:20	強風	み♀で餌やり回数が多い。雛羽ばたき
							5月23日	土	7:55-10:10	晴/曇	雛の羽ばたきが激しい。
							5月24日	日	7:30-8:30	晴	巣立ち2羽確認。巣立ち後親が来た。
							5月25日	月	16:00-16:30	晴	巣のまわりは静かだった。
5月29日	日	10:38	晴	27℃	対岸で4羽が鳴きながら飛翔。		5月26日	火	7:30-8:00		7:35オスが巣のちかくに来た。
							5月30日	水	7:40-8:20	晴	声は聞こえなかった。

5月3日

雌は一度だけ外に出て3分で戻った。雌の嘴や顔が見えた。

5月4日

雌は一度だけ外に出て6分で戻った。巣の中では尾の方向は左側で動きは少なかった。

(3) 育雛

5月6日

観察開始時、巣は留守の状態、5分以上経ってから雌が巣に戻ったが、5分後に巣から出た。その2分後に餌を啜って戻り、巣のそばにとまり巣の中に嘴を入れて何かを渡しているような様子が見えたので雛への給餌行動と判断した(写真12)。

餌の種類は分からなかった。その後、中をよく見  
から巣の中に座る行動が見られた。その5分後にはま  
た巣から出て、巣に戻るまで6分かかるなど外へ出  
る頻度が多くなり雛のための採餌をしているようだ  
った。

5月8日

雌のいないときに雄が給餌しているようすが確認  
できた。餌はクモのような節足動物に見えた(写真  
13)。

5月12日

観察の間(37分)、雌は近くの木にとまっていたが  
巣の中には入らなかった。雛の羽衣が生えそろってき  
たと推定した。その間に雄がやってきて雛の糞を取  
っていた(写真14)。

この翌日5月13日と14日は雨や大雨で市内の最  
高気温は17℃と低温の日が続いた。

5月15日

曇り、気温17℃。雌は巣の中に入って、脇の羽衣  
を広げて雛を温めている様子が見られた。

13:44、雌が巣から出て、10分後に大きい青虫(チョ

ウ目の幼虫)を啜えて戻り巣の外から給餌した。さら  
に5分後に給餌、その4分後にも給餌してから巣の中  
に入ったが、3分後には外に出て留守が続いた。給餌  
は観察方向とは反対側から行って餌の種類は分から  
なかった。35分以上経ったあとに雄が給餌した。雄の  
嘴には長い触覚を持つ昆虫を啜っていた(写真15)。  
このときに雛の尾が振れているのがわずかに見えた  
(写真16)。

その後、雌が戻り巣の中に入った。

給餌を確認した5月6日から9日経過しており、  
雛の活動が活発化しているはずなのに2020年の時と  
異なり、雛の顔は見られず、わずかに尾がみえるだけ  
であった。前回には雛の羽ばたきなどが観察できたが  
今回は雛の動きらしいものは尾を振っている以外何も  
見られなかった。

(4) 巣立ち

5月16日は曇りで、5月17日は小雨だった。

5月18日

久しぶりに好天となり、現地に出かけた。



写真13 2022年5月8日 給餌  
Photo 13 feeding (May 8,2022)



写真14 2022年5月12日 雛の糞の取り出し  
Photo 14 taking chicks feces out of nest (May 12,2022)



写真15 2022年5月15日 給餌  
Photo 15 feeding (May 15,2022)



写真16 2022年5月15日 雛の尾羽  
Photo 16 chicks tail (May 15,2022)

撮影準備をしている間、親の声がしたが、そののちは何も聞こえなくなった。巣を撮影すると中には何も見えなかった。巣の外観は5月15日と何ら変わりがなかった。1時間ほど様子を見たが付近では何も動きはなく声もしなかった。

嵩原(2002)によればリュウキュウサンショウクイの抱卵開始から巣立ちまでは32日内外である。この日が抱卵確認日4月17日より32日目で前日が小雨であったことを考えると巣立ちした可能性が高く、巣立ち後には巣の近くに親や雛が戻る可能性があるの翌日、早朝に観察することにした。

#### 5月19日

7:22、巣の中には何も見えなかった。

7:23、雄が上空を鳴きながら飛んできて通り過ぎて行くのが見られた(写真17)。

巣立ち後に親が雛を探す行動と解釈して、付近をよく観察することにした。

7:30、雛らしい幼鳥が2羽、営巣木のスギと10mほど離れた樹高がより高いコナラの木に向かって飛んできて葉の繁った枝に飛び込んで行ったのを目撃した。枝の中を移動している姿を写真に撮ったところ、尾が短く胸に黒い帯部分と顔に黒い過眼線がありリュウキュウサンショウクイの雛であることが確認できた(写真18, 写真19)。

葉の陰で動く姿がしばらく見えたが、7:56コナラの木から見えなくなった。

これらの観察結果から前日の5月18日に巣立ったと判断した。

#### 5月20日

9:37、雌が鳴いて飛んできて巣の近くにとまった。羽繕いをして休んでいるように見えた。3分後、雄が



写真17 2022年5月19日 鳴きながら飛ぶ雄  
Photo 17 male calling as it flies (May 19,2022)



写真18 2022年5月19日 巣立ち雛  
Photo 18 fledgling chicks (May 19,2022)



写真19 2022年5月19日 巣立ち雛  
Photo 19 fledgling chicks (May 19,2022)

鳴いて飛んできて、2羽一緒に近くを流れる川の上流方向に飛び去った。

#### 5月29日

巣の有る右岸の対岸にある林道の上空を4羽のリュウキュウサンショウクイが鳴きながら飛んでいたが、巣の周辺でリュウキュウサンショウクイを確認できなかったためこの日で観察を終了した。

### 考 察

#### 1 造巣前の古巣の状態

写真4の古巣を観察した2021年3月31日にこの古巣より50mほど離れた所でリュウキュウサンショウクイを見たが、古巣の周りでは姿や声を見聞きしなかった。同年5月18日も付近で姿や声を見聞きすることはなかったので、2021年にはこの場所での繁殖活動は無く、2年後の2022年に古巣の位置で再造巣をはじめたものと判断した。

2022年の造巣開始直前の古巣の状態は観察していないが、2020年の巣立ちから半年経った2020年11月23日には巣は既に半分ほどに崩壊していて枯れ葉

などの固い部材のようなものが残っているように見える。さらに半年経った2021年3月31日にはその状態は大きく変わっていないことから、残った部分は堅牢で劣化の進行は遅く、この1年後の2022年に造巢を始める時にも枝に固定した部分は残っていたと推定した。

嵩原(2002)によれば、リュウキュウサンショウクイの巣は、巣を固定するために巣の底よりも下部に木の皮を貼り付けた部分があると報告されている。前回2020年の巣の写真(写真1)を詳しく調べたところ、巣は水平に張り出した横枝に1本の手前斜めに伸びた支枝のほか、奥側にも1本伸びた支枝があり巣は水平枝とこの2本の支枝にかけて作られていることがわかった。嵩原(2002)が報告している木の皮を貼り付けたように見えるものは無かったが、水平の枝には巣の底部から糸のようなものが何本か絡んでいることが分かった。この糸のようなものは造巢時から巣立ち直後(写真1)も巣立ち後10ヶ月後(写真4)も残っていて巣を固定するためのものと推定できる。そのため水平に伸びた枝とこの枝から伸びた2本の支枝の中心に巣が固定されて安定性が保たれ、巣の基部は堅固に残っていたものと考えられ、古巢の基部を利用して新しく造巢したと考えられる。

## 2 古巢の再利用

秦野市内では今回の造巢前の2021年冬から2022年春には2022年2月16日(公野2022)、2月26日(八木2022)、3月13日(公野・公野2022)に3ヶ所で1羽から2羽のリュウキュウサンショウクイが観察されているが、観察頻度は少なく個体数も多くはない。

この造巢場所は水無川右岸のスギとヒノキの人工林のはじめの針広混交林の中で、谷の対岸も針広混交林で



写真20 2022年5月2日 対岸から造巢場所  
Photo 20 View of nest from the opposite shore (May 2, 2022)

ある。対岸から営巣場所を見るとどこにでも造巢する場所はあるように見える(写真20)。

造巢したスギは谷側に面していて、枝葉が繁った枝の最上部から3本目の横枝につくられている。下からも見難いがおそらく上空からはもっと見つかりにくい場所と思われ、この古い壊れた巣にリュウキュウサンショウクイの新しいペアが出合う確率は低いとおもわれる。

古巢の再利用には良い巣場所を再び利用するメリットがあり(小海途・和田2011)、一度巣をつくった場所は巣をつくるのに適した場所と評価され、巣場所として選ばれやすく、同じペアならその傾向はより強いと考えられ(和田岳 私信)、さらに前回無事に巣立ちまで到達できたということは安全性の実績がある場所だとも言える。古巢の再利用というよりも以前繁殖に成功した良い場所に、まだ古巢の基部が残っていたと考えた方が妥当かもしれない。外巢の基部だけでも利用する価値はあると思われる。

今回は2020年の繁殖の2年後に古巢の基部の上に造巢している。1年後には古巢近くで繁殖した様子はなかった。2年目に古巢の上に造巢した理由はわからないが、古巢を使うことで生じる病気や外部寄生虫などのリスクを避けるため(小海途・和田2011)かも知れない。

2020年4月に造巢繁殖した雄、雌の尾羽の先端は擦り切れたようになっていたが、2022年4月に造巢繁殖した雄と雌の尾羽は滑らかな縁であった(写真21)。これは若い個体の幼羽と成鳥の尾羽の違いの可能性があり(藤井幹 私信)、山階鳥類研究所鳥類標識センター(2008)によれば年齢を見分ける特徴の1

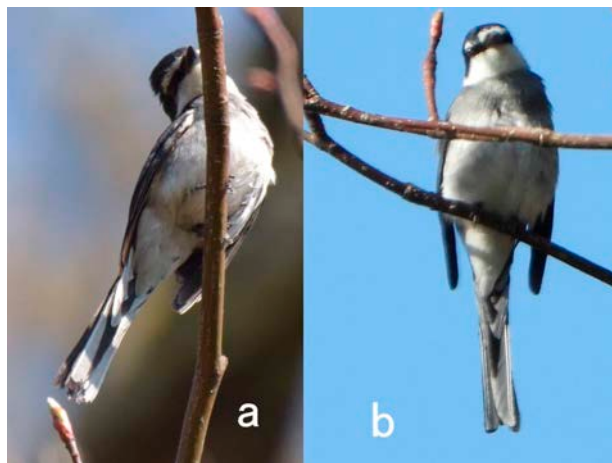


写真21 営巣した雌 a 2020年 b 2022年  
Photo 21 nesting female (a: 2020) (b: 2022)



つは、第1回冬羽と第1回夏羽までは幼羽が風切や尾羽、雨覆の一部に残っていることが多いとされ、尾羽の質的な違いから幼鳥の尾羽の先端は摩耗していることが多いとされる。一般に小型の野鳥の繁殖は生まれた翌年からとされており、スズメ目の鳥は5年から10年程度の寿命との調査結果（吉安ら2020）を考慮すると、今回繁殖に成功したペアは2020年に繁殖に成功した同じペアであるとしても矛盾はない。

今回の観察は、スズメ目の小型の野鳥が古巣の一部を利用して造巣したことを示唆する初めての観察結果である。

2022年の古巣に関しても今後観察を継続していく予定である。

### 3. 秦野市内での留鳥化

秦野市内ではほぼ年間を通してリュウキュウサンショウクイが見られている。冬季に関しては2020年1月19日にこの営巣場所から5kmほど離れた場所でリュウキュウサンショウクイが観察され（はだの野鳥の会2020）、2020年5月に繁殖が確認された（八木2020）。また2022年2月16日にはこの営巣場所から1km以内で2羽のリュウキュウサンショウクイが観察され（公野2022）、今回2022年5月に繁殖が確認された。

これらの時系列的つながりを考えると秦野市内ではすでに留鳥化していると推察される。

### 4. 繁殖期間

抱卵開始日については、造巣の観察最終日が4月13日で抱卵を観察した日は4月17日だったので、雛の数が2羽で産卵期間が2日とすると（山岸1997）、4月14日から4月16日の3日間に産卵が行われたことになり抱卵開始日は4月16日から4月17日と推定できる。

孵化日の推定は巣の真下から見上げている状態では、外にはみ出している尾と下尾筒の様子や雄の給餌、雌の巣外での行動時間などから判断するしかなく、抱卵中の様子との大きな違いが見られず育雛開始日の推定は難しかった。

巣立ち日は5月18日とすれば抱卵から巣立ち前日までの育雛期間は31日か32日となる。

これは嵩原（2002）が報告している抱卵期間15日内外、育雛期間17日で計32日内外の日数と一致し

ている。

嵩原（2002）が観察した沖縄県読谷村での繁殖時期は4月9日の造巣確認から巣立ち確認の5月26日で、秦野市で繁殖した2020年の4月8日の造巣確認から5月24日の巣立ちと2022年の4月11日造巣確認から5月18日の巣立ちともほぼ同じだった（表1）。沖縄県読谷村より平均気温が7℃から11℃低い秦野市（八木2020）で抱卵から巣立ちまでの繁殖期間が二度もほぼ同じだったことは、成長に必要な雛に与える餌の量などの条件が同じであることを示唆していると同時に営巣時期に関しては気温よりも餌となる昆虫などの発生時期などの季節的な要因の方が大きいのかかもしれない。

### 謝 辞

今回の観察結果の古巣の利用について貴重なご意見をいただいた大阪市立自然史博物館の和田岳氏と、樹上に皿状の巣を作る野鳥の古巣の再利用に関わる知見を開示していただくとともに尾羽の先端形状の解釈に対する適切かつ重要なご意見と情報を提供していただいた公益財団法人日本鳥類保護連盟の藤井幹氏に深く感謝いたします。

### 要 約

神奈川県秦野市の山中で2020年5月24日に亜種リュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus tegimae* の2羽が巣立ったあとの巣の変化を観察した。巣立ちから6ヶ月後には高さ1/2程度になっていたが、巣立ちから10ヶ月後の2021年3月31日にも変化はほとんど見られず巣の基部が残っていた。

2022年4月11日に亜種リュウキュウサンショウクイが同じスギの木に造巣したのを発見した。この巣は2020年に繁殖した巣と全く同じ場所にあり同じ形状をしており、この古巣の基部上に造巣したと判断した。その後、抱卵、育雛行動を確認し、さらに抱卵確認日から33日目の5月19日に巣の近くで2羽の雛を見つけ、繁殖が成功したことを確認した。これまでに樹の枝上に造巣するスズメ目の小型の鳥の古巣の再利用に関する報告は無く、今回の亜種リュウキュウサンショウクイの観察は古巣の一部を利用して造巣し繁殖したことを示唆する初めての記録である。

## 引用文献

- はだの野鳥の会, 2020. 会報野鳥だより 1月, No. 543.
- 小海途銀次郎・和田岳, 2011. 日本鳥の巣図鑑 小海途銀次郎コレクション (大阪市立自然史博物館叢書 5), 東海大学出版会, 秦野.
- 公野俊道, 2022. はだの野鳥の会速報, 2022-038.
- 公野俊道・公野節子, 2022. はだの野鳥の会速報, 2022-063.
- 箕輪義隆, 2016. 鳥のフィールドサイン観察ガイド, 株式会社文一総合出版, 東京.
- 柴田敏隆, 2006. 鳥のおもしろ行動学, 株式会社ナツメ社, 東京.
- 嵩原建二, 2002. 沖縄島で留鳥として生息する希少な3亜種の繁殖記録について. 沖縄県立博物館紀要 第28号: 1-11.
- 八木茂, 2020. 神奈川県秦野市におけるリュウキュウサンショウクイの造巣から巣立ちまでの観察. BINOS 27: 1-10.
- 八木茂, 2022. はだの野鳥の会速報. 2022-044.
- 山岸哲, 1997. 鳥類生態学入門. 築地書館, 東京.
- 山階鳥類研究所, 2008. 鳥類標識マニュアル (改訂第11版), 千葉.
- 吉安京子・森本元・千田万里子・仲村昇, 2020. 鳥類標識調査より得られた種別の生存期間一覧 (1961-2017年における上位2記録について). 山階鳥類誌 52: 21-48.

## SUMMARY

Changes in the nest were observed after 2 Ryukyu Ashy Minevet *Pericrocotus divaricatus tegimae* fledged in the mountains of Hadano, Kanagawa on May 24, 2020. It was observed that six months after fledging the height of the nest was reduced to about half, however, 10 months after fledging there was little change and the base of the nest still remained.

The nest was found on April 11, 2022 when the same subspecies Ryukyu Ashy Minevet *P. d. tegimae* nested in the same Cedar tree. It is in the same area of the nest that they had bred in during the previous breeding season. It was concluded that the nest was built on the base of the old nest. Incubation and brooding behavior was observed and on May 19 (33 days after confirmation of incubation) 2 chicks were found near the nest. This is the first report and observation suggesting that small passerines that nest on tree branches may reuse part of old nests.